

交通網問題対策等調査特別委員会 行政視察調査報告書

- 1 視察日 2023年7月13日(木)
- 2 視察先調査事項
○兵庫県三田市
・中型自動運転バスの実証実験について
○兵庫県猪名川町
・「チョイソコいながわ」について
- 3 視察者
委員長 竹中 理
副委員長 小森 弘 詞
委員 岡本 昭 治
委員 清水 寛
委員 須山 泰 一
委員 前田 敦 司
委員 義本 みどり
当 局 澤 田 秀 夫 (都市整備部長)
議会事務局 坂本 英津子
菅 谷 祐 一



三田市にて説明を受ける



三田市議会議場にて



猪名川町にて意見交換



猪名川町役場前にて

日 時	2023年7月13日(木) 午前10時00分～午前11時30分
視 察 先	兵庫県三田市 三田市役所
調査項目	中型自動運転バス実証実験について
調査内容	<p>【概 要】</p> <p>人口約10万人の三田市は、阪神地域のベッドタウンとしてニュータウン開発が進んだ都市である。「既成市街地」「農村・山岳地域」「ニュータウン」から構成され、鉄道路線・バス路線は充実しており、交通空白地はないものの、交通不便地が増加傾向にある。地域課題として、ニュータウンにおける急速な高齢化と、人口減少によって将来的に公共交通の維持が難しくなることが予測されることから、持続性のある域内移動性の確保等を目的に、基幹交通の自動運転化に向けた実証実験が行われた。まち再生部都市政策室交通企画係担当者より詳細な説明を受けた。</p> <p>【技術面】</p> <p>実証実験は中型自動運転バス（自動運転レベル2）を用いてドライバーが操作介入できる状態で行われた。自動運転関連機器（GPS、磁気マーカーセンサー、カメラ等多数）を搭載し、交差点など要所に設置されたスマートポール（センサー）からの情報と連携することでより高度な自動運転を実証した。結果、自動運転割合は平均90%と高値。路上駐車車両回避や信号認識低下によって運転手が操作介入したケースが多く、降雪時は自動運転不可の区間もあった。</p> <p>【経済面】</p> <p>実証実験に使われた中型バスは、販売する場合は1億8千万円程度になるとの試算。さらに、道路整備や通信環境整備など自動運転に必要な環境を整えるために要する費用は未知数である。ただし、バス運転手の人件費抑制（自動運転レベル4なら保安員として大型2種免許なしでも良い）には繋がる。</p> <p>【課 題】</p> <p>自動運転レベル4に対応する方向で関係法令は整備されつつある。事故責任の所在や、セキュリティ、システムの信頼性など課題とされる面は多い。国県との連携は必須である。なお、当該実証実験はすべての区間、市道で実施されたため関係機関との調整は比較的少なかったようである。</p>
所 感	<p>国において自動運転に関連する様々なプロジェクトが推進され、将来的に大いに期待される分野である。当該実証実験は、ニュータウンという環境での実施であったが、導入を目指す状況（どこで誰を乗せて走るのか）を見極めて事業構築することが重要であり、実証から実装へのプロセスである。</p> <p>本市においても人口減少による利用者減少、運転手不足が深刻化しつつあり、持続性のある公共交通政策を検討する上で、今後欠かせないテーマが自動運転である。技術面、経済面、制度面で種々課題はあるが、日々進歩する分野であり、引き続き様々な情報にアンテナをはっておくことが必要である。</p>

日 時	2023年7月13日(木) 午後1時30分～午後3時00分
視 察 先	兵庫県猪名川町 猪名川町役場
調査項目	「チョイソコいながわ」について
調査内容	<p>【概 要】</p> <p>猪名川町は人口約 2.9 万人、町全域が都市計画区域に指定されている。南北に細長い町の南部に人口が集中しており、町域の6%に約76%の住民が居住している。公共交通は能勢電鉄、阪急バスがあり、路線バスと重複してコミュニティバス「ふれあいバス」が運行している。</p> <p>町内全バス路線が慢性的な赤字路線であり効率的な運行が難しい状況の中、「チョイソコいながわ」の実証実験は開始された。</p> <p>乗り合い送迎サービス「チョイソコいながわ」は、愛知県豊明市で運行中のチョイソコの仕組みを活用し、「オンデマンド型の移動支援サービス」を令和2年5月に無償での実証実験を開始し、令和3年7月からは有償での実証実験を行い、令和4年度からは本格運行（道路運送法第4条）を実施している。</p> <p>事業主体はネットヨタ神戸株式会社で、日の丸ハイヤー株式会社へ運行を委託。猪名川町はエリアスポンサーとして事業主体へ赤字欠損額の支援を行っている。今後は（仮称）猪名川町公共交通実施計画を策定し、令和6年度には「新たな公共交通ネットワークによる各交通モードの運行」を開始する予定である。</p> <p>【利用状況】</p> <p>チョイソコいながわを利用するには事前登録が必要である。登録者数は、令和4年3月で1,129人、特に60代から80代の女性が多い。令和4年度の利用者は10,858人/年で、令和3年度、令和2年度より利用者数は減少した。その理由としては近隣中学校のスクールバスが運行したことによる生徒数分の減少であり、一定の需要はある。</p> <p>利用者の声を聴き様々な改善に努めている。例えば、コールセンターを町内に設置し、地元の土地勘があるオペレーターが対応することでスムーズに受付を行うことなどの環境づくりや、乗降しやすいように車両にステップを取り付ける等、要望に応じている。</p>
所 感	<p>本市では、市営バスの廃止地域など公共交通空白地域での移動手段を確保するため、地元関係者で組織する運営協議会が主体となって、市の支援を受けながら「チクタク」を運行している。受付等の事務、運転手の研修や実働などすべて運営協議会が行っており、現在4地域で、継続運行している。加えて、新しい交通モードの実証実験を竹野地域で実施しており、地域実情、時代に応じた交通モード等、地域交通の在り方についてその多様性が求められている。</p> <p>猪名川町のこの制度を本市に導入する場合、民間企業との連携、協働、市の関わり方等検討する余地はあるが、現在のチクタク運行の予算額より数倍上回ることになり、直ちに新規事業化は大変難しい状況にある。</p>